

同志社大学理工学部

情報システムデザイン学科訪問

2014年12月13日（土）同志社大学京田辺キャンパスを訪問しました。

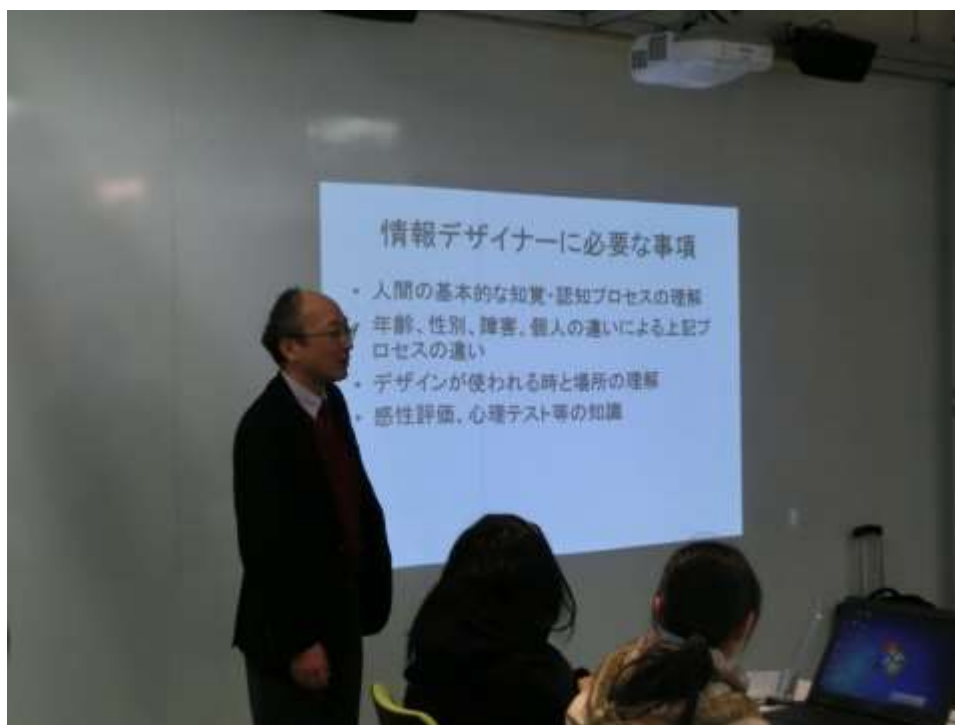
まず、同志社ローム記念館にて、同志社ローム記念館プロジェクトの説明を聞きました。プロジェクトメンバーの先輩からアドバイスをもらいながら、AR（拡張現実）技術を用いて理科の実験（電気回路を作る）をタブレット端末で体験してみました。



本当の実験
をしている
みたい！！



その後、情報システムデザイン学科の教室で、大久保雅史先生から研究室の紹介があり、大学生の先輩が研究している内容をわかりやすく話してくださいました。



人がコンピュータをもっと身近に感じられるための研究を日々行っているそうです。

数学や理科の勉強はもちろん、コンピュータを使うのは人間だから、人間力を高めて欲しいと言われ、全員納得。

その後、一人1台のパソコンで、実際にCGでアニメを作ってみました。1時間かけて、サッカーボールを蹴るシーンを先輩方が丁寧に説明し、フォローしてもらいながらの作成。たくさん時間をかけた割には、アニメにするとあっという間。大変さを知りました。

たくさんの体験プログラムを準備してくださり、丁寧に説明、指導して下さった大久保研究室のみなさんに感動しました。



<参加生徒の感想>

最初にタブレットでやった電子回路の実験に驚きました。本当はそこにはないものなのに画面上に立体で映っていて、しかもそれで実験ができるのはとてもおもしろかったです。また、顔や声色、ジェスチャーなどで伝わっている普通の会話をメールやLINEのようなものでもできるようにしたものにも驚きました。

それから、パソコンでアニメをつくるのはとても大変だったけど、とてもおもしろかったです。今回つくったのはたった数十秒の簡単な動作だったけど、1時間以上かかり、とても大変でした。だから本当にテレビなどでするアニメをつくらうと思うと、もっと時間がかかるし、一つ一つの小さな動作でも大変だし、すごいことだということが分かりました。本当に貴重な経験ができたし、どれも楽しかったです。
(1年女子)

大学生や大学院生の先輩がどんな活動を行っているのか知れておもしろかったです。はじめのタブレットを使って理科の勉強をするアプリを作られたというのを聞いて、大学生はこんなこともできるんだと思いました。ノートで単に回路を書いて解くよりもイメージがわいて分かりやすかったです。また、チャットの吹き出しが心拍数によって色を変えるというのはその発想がすごいと思いました。どうやったらもっと伝わるか考えるのは大変だったけど楽しそうだと感じました。1人1台パソコンを使ってアニメを作るというおもしろい体験を少し時間だけでできて良かったです。できあがった動画はボールがちょっとしか動かなかったけど楽しかったです。もっと時間をかけて作ったものを見てみたかったです。

もともとパソコンをいじるのが好きで興味を持ち参加したのですが、大学生は研究室で思った以上に高度なことをしていて驚きました。私が大学生になったら理工学部で学ぶこともおもしろそうだと思います。
(2年 女子)

今回の理工学部研究室訪問で一番楽しかったのではパソコンで簡単なアニメを作ったことでした。あの作業は少し時間がかかったけれどとても楽しかったです。そして、このアプリが欲しくなりました。
(2年 男子)

○参考

同志社大学理工学部情報システムデザイン学科

URL : <http://se.doshisha.ac.jp/doc/education/gakka/jouhousystem/index.html>